

各水試発トピックス

新人研究職員を対象に貝の分類研修を行いました

北海道において、ツブ類は重要な水産資源です。2021年に北海道太平洋沿岸で発生した赤潮により大きな被害を受けたとされていますが、ツブ類の分類や生態については不明な点が多いため、被害の評価や回復策の検討の際に多くの支障が生じました。これらの問題解決のために、栽培水産試験場では新たにツブ類の調査研究をスタートしました。

しかし、ツブ類にはいろいろな種類の巻き貝が含まれます。しかも、どの種類も似たような形をしており、素人がみても簡単に区別ができません。生き物を対象とする水産試験場において、種の分類は基盤的なスキルですが、いつまでも特定の詳しい職員が在籍できるわけではないので、貝類の分類の専門家である先輩職員から新人職員へ貝類の分類を指導する研修を行いました。

令和6年9月18日に栽培水産試験場のそばにある岩礁海岸で研修を実施しました。講師は、貝類分類の専門家である栗原専門研究員で、参加者は栽培水産試験場の新人研究職員2名でした(写真1)。当日は、好天に恵まれたことで多数の標本を試験場に持ち帰り、講師の指導のもとで詳

細に観察することができました。

今回の研修では16種の貝類を分類することができました。これまでの調査ではこの場所では37種が確認されていますが、今回の研修で新たに8種が確認され、貝類相のリストを更新することができました。受講した研究職員からは「フィールドには多様な生物が生息するので、今回の研修を活かし、今後も貝類の種分類スキルアップに努めたい」、「季節によって見られる貝種も変わるので、また調査したい」と感想が述べられ、業務を通じて引き続きスキルアップに努めることとなりました。

水産試験場において、将来を担う若い研究職員の人材育成は大切なテーマです。これからも、先輩職員から若手職員へ技術継承を進めることにより、試験場の強みである長年の蓄積を活かし、地域の水産試験場として地域が抱える課題解決に取り組んでいきます。

(佐野 稔 栽培水試調査研究部)



写真1 貝類分類研修の様子

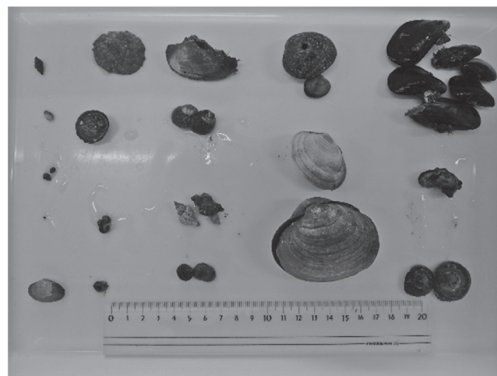


写真2 今回採集された巻き貝を含む貝類